

氷室作太夫家住居を再発見するプロジェクト かわら版

第1号
H29.8

発行／津島の
宝物ひろめ隊
津島市本町1
丁目26番地

●プロジェクトの内容

津島の宝物ひろめ隊は、まちの地域資源は津島の宝物と考え、その魅力を広める活動をする市民活動団体です。

今回、つしま歴史・文化のまちづくり提案補助事業の採択を受け、「氷室作太夫家住居を再発見するプロジェクト」を実施します。氷室作太夫家住居を再発見（再認識・再評価）し、利活用案とそのために必要な整備案を取りまとめる活動を進めていきます。皆様のご参加をお待ちしています。

●活動報告（8/12）

平成29年8月12日（土）にプロジェクトの第1回目を開催しました。事務局を含め22名の参加がありました。



氷室作太夫家住居前にて



（見学後の意見交換会の様子）

参加者のほとんどが氷室作太夫家住居に入ることがなかったため、「氷室作太夫家住居について知る」というテーマで内部の見学を行いました。

見学後はまちや・まちなみ再生機構事務所に移動し、参加者の皆様それぞれが氷室作太夫家住居を見て感じたことを発表しました。

●意見交換会～意見の一部を紹介します～

- ・昔は地域の人に開放されていたが、現在は公開されていないため、今回久しぶりに見ることができた。
- ・内部の傷みがひどいため、せつかくの貴重な遺産が活かされず残念だ。
- ・今まで津島に暮らしてきたが、氷室作太夫家住居の存在自体を知らなかった。
- ・氷室作太夫家住居の存在が津島市民にあまり知られていないため、市民向けにここの存在を発信していく必要がある。
- ・残すことができるどころと、壊す必要があるところを分けなければいけないのではないかと。
- ・博物館のように残すのではなく、氷室作太夫家住居があつた場所にあつた意味を考えなくてはいけないのではないかと。
- ・定期的に修繕はしているようだが、これ以上傷みがひどくなる前に、早めに議論しなくてはならない。

●まとめ

氷室作太夫家住居の保存について、どのように外部の注目を集めていくかということが議論の中心になりました。古文書などの歴史的な遺産だけでは、全国的に似たような取り組みがあるため、雅楽などの個性的なものでなければ注目を集めることができないとの厳しい意見が出されました。

しかし一方で、氷室作太夫家住居や津島御師の活動について、まだ知られていないことが多いことから、次回以降は外部講師をお招きして、この点を議論していきたいと思ひます。

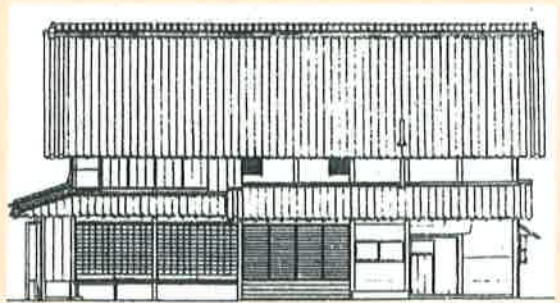
●次回のお知らせ

今回は9月9日（土）午後、「氷室作太夫家住居の魅力を探る」をテーマに開催します。講師に西澤泰彦氏（名古屋大学教授）をお招きする予定です。

「朽ちて埃まみれの氷室作太夫家住居ですが、建物には建てた方々の工夫があり、また、その後、維持してきた方々の工夫があります。見学を通して、その工夫と魅力を探りましょう」

津島市有形文化財 ひむろさくたゆうけじゅうきょ 氷室作太夫家住居 (津島市 片町)

指定年月日 平成2年3月31日
所有者 津島市
建築の年代 母屋 嘉永2年(1849年)
指定物件 母屋 木造瓦葺2階建 1棟
長屋 木造瓦葺平屋建 1棟
門 1棟、中庭 277㎡
附指定物件 門塀 1棟、棟札 2枚、古図 2枚



氷室作太夫家住居とはどんな建物？

津島神社の社家(神職家)は、幕末には30家を数えましたが、明治に入ると制度の改革で転職した家も多く、現在、社家の様式を残す建築物は、嘉永2年(1849)に建てられたといわれるこの住居のみです。津島神社の社家は御師として太夫名を名乗り、地方をまわって信徒を結び、信徒が津島神社に参詣する際は、自宅に宿泊させ神樂を行ったりしてもてなしました。

(出典：津島市制施行50周年記念誌 津島物語)

シリーズ 氷室家の家屋敷について：「第1回 表門」

薬師門と呼ぶ形式の正門とその脇の小門からなる。正門には観音開きの重厚な扉がつけられ、かんぬきによって施錠される。小門は片開きの扉による潜り戸で、内側には鉄ぐさりと重りを繋いだ装置が取り付けられている。入る時は押し開けて入るが、入った後、手を離すと自動的に閉まる仕掛けである。

建築年代は不明であるが、安政五年(1858)の屋敷図とは間口や小門の位置が異なり、それ以降の建築である。いずれにしても江戸末の建築と推測され、一部の補修を除いてその当時のままと考えられ、建築後約150年を経た建物である。

片町のあたりは町人町で、間口の狭い奥深い町家が軒を並べていた地域である。その一角に一般町人には許されない、このような門構えの社家があったことになる。当時、ひときわ立派に見えたことであろうと思われる。

(出典：氷室作太夫家住居パンフレット)



氷室作太夫家住居を再発見するプロジェクトでは、Facebook ページで情報等の配信を行っています。

氷室作太夫家住居を再発見するプロジェクト

で、検索してアクセスして下さい。